

令和5年度 重点取組事項に対する取組及び評価

評価は、学校・園が「A:十分達成した、B:ほぼ達成した、C:あまり達成できなかった、D:全く達成できなかった」の4段階に評価し、それを点数化(A=4点、B=3点、C=2点、D=1点)して、市全体の平均(下段の点)をとった。そして、3.5以上をA、3以上をB、2.5以上をC、2.5未満をDと評価した。

(0)「幸せになるための教育」を考えて実現していく。

小学校・中学校

	小学校	中学校
①「幸せになるための教育」を考えて実現していく。	B	B
	3.1	3.0

①学校教育目標に「幸せ」を位置づけ、教職員の意識化を図った。「半田ハッピーウィーク」での公開授業では、幸せについて考える場面を取り入れた授業を通して、児童生徒、保護者ともに幸せを実感できるよう、各校が工夫して実践することができた。日常的な取組や保護者・地域との協働など、今後のさらなる充実の必要がある。

(1)ふるさと半田が大好きな子を育てる。

幼稚園

	幼稚園
①身近な人や生活に興味をもち、関わりを楽しみます。	A 3.8
②新美南吉作品に触れる機会を積極的につくります。	B 3.0

①防災の話や交通教室、消防自動車見学、敬老会との交流などを通して、地域の様々な立場の方と関わりをもつことができた。また、地域の公園やお寺、学校への園外保育を実施し、地域への関心をもつことができた。今後も、継続的な交流の機会をつくっていききたい。

②南吉作品の紙芝居や絵本の読み聞かせを通して作品に親しむことができた。今後も、幼児に適した作品を知って絵本選びの充実を図ったり、保護者が興味関心を高めるように働きかけたりすることが必要である。

(1)ふるさと半田のよさを知り、愛し、誇れる子を育てる。

小学校・中学校

	小学校	中学校
①コミュニティ・スクールの充実	A 3.6	A 3.5
②郷土学習の推進	B 3.4	C 2.8
③特色を生かした学校づくり	A 3.6	A 4.0

①学校が抱えている問題点や悩み等を共通理解、共有し、ともに考え、助言をいただく機会となっている。様々な支援をいただく中で、児童生徒に地域を誇りに思う気持ちを高めることができた。

②小学校では、今年度から主に3年生で市内施設の見学を取り入れた。また、学習内容と関連付けて地域の施設の見学や地域の方から学ぶ機会を準備した。中学校では、地域や地元企業の抱える課題について、ともに考える活動を行っている。また、今年度は、はんだ山車祭りへも関わることもできた。地域への愛着を深めるとともに、地域を誇りに思うことにつながっている。一部の学年や行事だけに留まるのではなく、全体的なバランスを考えた計画の充実が必要である。

③学校祭や異年齢交流など学校の特色や、南吉学習や応援隊、ボランティア活動など地域の特色を生かした教育活動が展開されている。コロナ禍を経て、校内での活動、地域の各種団体との連携など教育活動の再構築に向けた取組が進められている。

(2)かけがえのない命を大切に育てる。

幼稚園

	幼稚園
①自分が愛される経験を大切にし、互いに認め合い一緒に活動する楽しさを味わわせます。	A 3.7
②四季や動植物との関わりの中で命に気付く体験を大切にします。	A 3.5

①誕生会に保護者と参加したり友達に祝ってもらったりすることで、自分が愛されていることを実感できた。また、友達と互いのよさを認め合ったり、互いの思いを知る機会をつくったりすることで、一緒に取り組む楽しさを味わうことができた。

②昆虫や小動物の飼育を通して命の大切さに気付くことができた。また、野菜の栽培、収穫を通して、生長を感じた。今後も、季節や機会を逃さないように計画を立てたり、日常的に触れ合える環境を整備したりすることが必要である。

(2)かけがえのない命を大切にし、人の役に立とうとする子を育てる

小学校・中学校

	小学校	中学校
①命の学習の充実	B 3.4	B 3.3
②「特別の教科 道徳」の推進	B 3.1	B 3.0
③教育相談体制の充実	A 3.6	A 3.5

①関係機関の協力により、命を守る現場で働く方々の声を聞く機会をもち、命について考えたり自他の命に目を向けたりすることかできた。事前の打ち合わせや教科等との連携など、今後も工夫していく必要がある。

②道徳教育推進教師を中心に、各校で道徳の授業実践、研究が進んでいる。学校公開日での道徳科の授業公開や交換授業を行うことで、家庭とともに学校全体で児童生徒を育てていくという意識につながっている。よりよい指導方法についての研究や共有等を通して、さらなる指導力の向上に取り組んでいく必要がある。

③「Q-Uテスト」や学校生活アンケート、教育相談を実施し、把握した内容を共有して、その後の指導に生かしている。また、SCや心の教室相談員、SSW、CSWとの連携により、チームで支える環境を整備し、安全・安心な学校づくりに努めている。

(3) 夢をもち、楽しく遊ぶ子を育てる。

幼稚園

	幼稚園
①友達と共に遊ぶ中で、好奇心や探究心を育てます。	A 3.7
②ごっこ遊びや手伝い（係活動）を通して、夢やあこがれをもたせます。	A 3.7
③キャリア教育の一環として、幼稚園から小学校へのつながりを円滑にする取り組みを進めます。	B 3.2

①遊びの中で気付きや疑問を友達と共有したり、じっくり取り組める環境を用意したりすることで、友達と考えたり工夫したりして遊びを広げていく姿をよく見かけるようになった。

②ごっこ遊びを通していろいろな役柄を経験することで、興味や憧れの気持ちをもつきかけになった。係活動を行うことで、役に立つ喜びを感じ自信をもったり、年上の子への憧れの気持ちをもったりすることができた。

③小学校の見学や給食試食会、校長講話などを通して、年長児に小学校への期待をもたせることができた。また、中学校区のキャリア教育の情報を共有することで、見直しや調整を図ることができた。今後も、小学校の参観や子ども同士の交流の機会を増やしていきたい。

(3) 確かな学力を身に付け、夢や目標に向かって自らを高めようとする子を育てる。

小学校・中学校

	小学校	中学校
①キャリア教育の推進	B 3.3	B 3.2
②「主体的・対話的で深い学び」を保障する授業改革	B 3.3	B 3.2
③特別な支援を要する児童生徒への指導の充実	A 3.6	B 3.2
④ICTの利活用	A 3.6	A 3.8

①授業や各種行事などで「キャリア教育ABCD」を位置付けて取り組むことができた。中学校区ごとの計画の整備やキャリアパスポートの活用など、キャリア教育の推進に努めている。今年度末までに見直しを進めた「キャリア教育ABCD」の理解、浸透を図っていきたい。

②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、児童生徒同士のかかわりやタブレット端末の活用など、様々な工夫が見られた。今後は、単元を通して身に付けさせたい資質・能力の育成や評価の在り方、協働的な学びと個別最適な学びの関係などについて、研鑽を積み、さらなる力量向上に向けた工夫が必要である。

③学級担任や学年主任、特別支援教育コーディネーター、生活支援員の連携に取り、個々の課題に応じて支援の実現に努めている。また、校内教育支援委員会やケース会議を通じて、個々の課題の整理や支援の在り方について共有することも、支援の充実に寄与している。教員のさらなる力量向上のための研究の充実が必要である。

④タブレット端末を教材の提示や意見の集約、活動のまとめ・発表、振り返りに活用している。また、欠席児童生徒への対応や保護者との連絡等、授業場面以外での活用も進んでいる。効果的な利活用が進められており、今後も、さらなる充実を図っていきたい。

(4)生活リズムのよい、心身ともに元気な子を育てる。

幼稚園

	幼稚園
①家庭との連携を図り、健康的な生活のリズムを身に付けます。	B 3.0
②戸外遊びや運動遊び、リズム遊びを通して、基礎的な体力や体の動きを身に付けます。	A 4.0
③栽培・収穫・調理などを通して、「食」の喜びを味わわせます。	A 3.5

①園だよりや学年だより、降園時の連絡、個人懇談で園での子どもの様子を伝えることで、生活リズムを整える大切さの理解を促し、協力を得ることができた。家庭状況により実践することが難しい保護者もいるため、今後も理解、実践につながるよう伝えていくことが必要である。

②戸外遊び（集団遊び、固定遊具など）やリズム遊び、サーキット遊びを通して、体を動かす楽しさを感じながら体力が付き、必要な体の動きを身に付けることができた。自分から遊びだしたり挑戦したりする姿をよく見かけた。

③自分たちで栽培、収穫した作物を調理し食べることで、収穫の喜びと調理に関わる楽しさを体験し、「食」への関心が高まった。苦手な物も食べられるようになり、自信につながった。

(4)望ましい生活習慣を身に付け、健康と体力の向上を図ろうとする子を育てる。

小学校・中学校

	小学校	中学校
①基本的な生活習慣の確立	B 3.2	B 3.4
②心を耕す読書活動と音楽文化振興	B 3.4	B 3.0
③体力の向上	B 3.3	C 2.8

①委員会活動を中心に、児童生徒の自主的な活動によって「あいさつ 返事履物そろえ」など基本的な生活習慣の確立への意識が高まってきている。意識の高まりは感じられるが、実際の状況の改善まで結びつくことが難しい場面も見られた。児童生徒自身による意識改革と、教員による具体的・効果的な指導を関連させ、具体的な成果を出せるようにしていく必要がある。

②朝の読書や読み聞かせ、委員会主催の行事・キャンペーンなどを通して、本に親しむ機会をつくってきた。電子図書館の利用もできるようになったことで、本に親しむ機会の創出の一助となっている。音楽文化振興については、小学校では、セントラル愛知交響楽団によるアウトリーチ事業や音楽会などを通して、音楽に親しむ機会を用意している。中学校では、合唱コンクールを実施したり、外部団体による演奏を聴いたりするなど各校で工夫している。

③体育や保健体育の授業では、できる限り運動量を確保するよう、工夫して取り組んでいる。小学校では、持久走や縄跳びなど、業間運動にも取り組んでいる。体力の減少が全国的な課題となっているなか、学校生活以外でも自ら体力を増強できるような動機づけを行っていくことが必要である。